



報道機関各位

令和8年1月23日
北九州市産業経済局

令和7年度 北九州 DX 大賞 受賞者決定！

～北九州市内の中堅・中小企業等における DX 優良事例を表彰～

北九州市では、市内企業が実施するDXの取組を支援することにより、事業変革や生産性向上につなげ、競争力の維持向上を図っています。

この取り組みを通じて、経済産業省が全国の中堅・中小企業向けに実施する「DX セレクション」において、全国の自治体で唯一、4年連続で北九州市内の企業が受賞するなど、DX モデルとなる企業が多く生まれつつあります。

このような中、より多くのDXによる事業変革に取り組む企業の創出や、DXをより一層推進していくことを目的に、DX優良事例となる取り組みを実施している市内中堅・中小事業者を表彰し、モデルケースとして取組事例を発信する表彰制度である「北九州 DX 大賞」の募集を行いました。

その結果、受賞企業 5 社を決定しましたので下記のとおりお知らせいたします。

なお、令和5年度に本表彰制度を開始してからは、北九州市は受賞者を経済産業省の DX セレクションに推薦しており、推薦企業は2年連続で経済産業局の DX セレクションを受賞しています。

記

■グランプリ

プーラビダ株式会社	医療・福祉業
-----------	--------

■準グランプリ

株式会社池間組	建設業
有限会社白石書店	卸売・小売業

■優秀賞

シャボン玉石けん株式会社	製造業
株式会社不動産中央情報センター	不動産業

※表彰式および事例発表会は3月26日に北九州国際会議場にて開催予定の北九州市 DX 推進フォーラム内で実施予定(詳細は別途発表予定)。

【問合せ先】

産業経済局 中小企業振興課
担当:藤原(課長)、竹本(係長)
電話:093-873-1433

■受賞企業各社の取組概要

【グランプリ】

	取組	審査員講評（抜粋）
プーラビダ 株式会社 【医療・ 福祉業】	「医療・介護従事者が幸せになり、適正な利益を得て、地域に貢献する」を目指し、生産性向上と働きがい改革を推進。汎用ツールや AI を活用した低コストな DX 基盤を構築。属人性の排除による品質の標準化、コア業務に集中できる環境の構築、従業員の高い定着率とエンゲージメントを実現した他、制度変更や新たな業務ニーズにも迅速に対応できるビジネスモデルを確立。さらにノウハウは他社にも展開。	本業における生産性の向上を最大の課題と捉え、成長戦略を高生産性の実現することと定義し、その道具立てとしてデジタルツールを有効活用したことは、中小企業のデジタル技術を活用し成長する一つの手本となり得ると思料。独自の飛び道具的な IT を利用するのではなく、既存の複数のツールを使いこなしながら実現している。

【準グランプリ】

	取組	審査員講評（抜粋）
株式会社 池間組 【建設業】	港湾工事において、現場と本社が情報を共有しながら仕事を進められる体制を構築。さらに、人の経験と判断に依存していた施工管理を、デジタル技術によって可視化・標準化し、「現場の知」をデータとして蓄積・共有することにより、省力化と高品質施工を実現。社員数を増やさずに高いシェアを維持し、持続可能な事業モデルの確立を目指す。	多くの企業が、デジタルツールを現場に導入して終わりになりがちなか中、現場の負担を本社が引き取るという業務プロセスの抜本的な見直しを行い、その手段としてデジタル技術を活用。結果として現場技術者の長時間労働是正や、若手への技術継承という業界全体の重要課題にリーチできていると考えられる。
有限会社 白石書店 【卸売・ 小売業】	「アナログな出版業界が抱える非効率とリスクをデジタルで解決するリーディングカンパニー」となることを目指し、長年の学校販売のノウハウとデジタル技術の融合による新たなクラウドサービスを展開。従来のモノ売りから、SaaS 提供へと転換し、全国の教育現場と保護者に新たな価値を提供する。	自社の業界知識を武器に業務改革を成し遂げるという事例。単なる守りの DX で終わらず、自社開発したシステムを SaaS 外販で攻めの DX へと展開し、収益構造そのものを変えようとしている。地場企業が生き残るための強力なロールモデルとなり得る。

【優秀賞】

	取組
シャボン玉石 けん株式会社 【製造業】	「健康な体ときれいな水を守る」経営ビジョンのもと、DX をサステナビリティ戦略として位置づけ、電力監視システムの自社開発や AI を活用した生産計画の自動化を進めている。職人の経験をデータ化し、高品質な製品を安定供給しつつ、環境負荷低減と企業価値向上を目指す。
株式会社 不動産中央 情報センター 【不動産業】	人口減少・超高齢化社会や AI 等による産業構造の変化に対応するため、「環境適応力」をキーワードに、経験と勘に依存しない「サービスサイエンス経営」、生涯顧客の実現、AI/ICT を活用した「業務革新」による生産性向上に取り組む。